



神風特攻隊全戦没者の碑

ここは第二次世界大戦当時最初のカミカゼ基地、マバラカット東飛行場跡です。昭和十九年十月二十日大西海軍中将によってマバラカットで編成された。最初の志願者は当地に進駐して来た帝国海軍第一航空艦隊第二〇一航空隊所属の搭乗員二十四人でした。最初のカミカゼ隊指揮官は、大尉関行男で「神風特別攻撃隊」と呼ばれ、救島隊、大和隊、朝日隊、山桜隊の四隊に分れていました。昭和十九年十月二十五日、部下大尉指揮のもとに午前七時二十五分ここを飛び立った。部下大尉指揮のもとに兵曹中野磐雄、一等飛行兵曹谷幡夫、飛行兵長永峰榮、一等飛行兵大黒繁男でした。同日午前十時四十五分レイテ近海にて米海軍空母群を攻撃。先ず関大尉機が米艦セイントローに体当たり爆破二十分後に沈没させ隊員機は米艦カリニン、トベイ、同キントカン、ベイ、同サン、同サン、同テイ、同スワン、同ホワイ、トブレ、ンズを攻撃した。戦果では関行男大尉を「世界最初の正式人間爆弾」として、戦果は第二次世界大戦終了までのカミカゼ特攻の戦果は米艦船の撃沈又は大破合計三二二隻兵員に与えた損害九〇〇人以上であった。

そしてカミカゼ隊員五〇〇〇人の内四六〇〇人が戦死した。カミカゼ特攻はすべての世界史の記録に例のない壮挙であり、歴史のあきらかにするところによればその背後にあった理念は正に凡ての国が相互尊重と機会均等の原則に従って共存共栄を偲にする世界の秩序と平和の確立をひたむきに願うその実現のため散華したことです。

フイリピン、カミカゼ記念協会
 調査編集 会長ダニエルH・ディゾン



第二次大戦後、マバラカット東基地は放置され、一時放牧場になっていましたが、現在は畑地として開拓しているようです。

20年位前に訪れたことがありますが、飛行場としての痕跡は全くありませんでした。一隅に記念碑があり、最近コンクリー製の鳥居ができたようです。

多分滑走路があった辺りにこの看板がありました。